

(別紙2)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月16日

【評価実施概要】

事業所番号	21709800177
法人名	有限会社なないろファミリー
事業所名	グループホーム「虹の里」伊自良
所在地	山県市松尾344-5 (電話) 0581-36-1020

評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年4月2日	評価確定日	平成19年5月24日

【情報提供票より】 (19年 3月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 1人, 非常勤 12人,	常勤換算 6.6

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨ユニットハウス 造り 1 階建ての ~ 1 階部分
------	----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,900円~ 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食 300 円 夕食 450 円 または1日当たり 円	昼食 350 円 おやつ 150 円	

(4) 利用者の概要 (3月 1日 現在)

利用者人数	7 名	男性	0 名	女性	7 名
要介護1	0	要介護2	2		
要介護3	4	要介護4	0		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 78.9 歳	最低 66 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鳥澤医院、谷水歯科医院、黒野病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺は山と畑に囲まれたのどかな環境で、管理者自らの介護体験から利用者本位の介護実践の思いを強くし、夫婦で立ち上げたグループホームである。開設時は土地に縁がないところからスタートし、大家を通して地域に理解を広げる努力をされていった。利用者も4年半が経ち、落ち着いた暮らしのリズムが出来ているが徐々に高齢化による身体的機能低下が目立ち、これまで散歩や外出など複数で行動を共にしていたことが、一人ひとりに支援が必要な状況になりつつある。管理者を含め4人が看護師資格を有しており、医療面での充実と安心を提供している。またターミナルケアも視野に入れた支援を目指しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の排泄時の声かけの配慮や食事を共に楽しむ場面等の改善点は会議で繰り返し話し合いがなされ、職員の意識化で改善が図られていた。また研修状況や地域交流については今も継続の状況にある。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を十分に理解し、自己評価の基準に対して真摯な評価取り組み姿勢が見て取れる。職員は業務に追われ時間的余裕がなく、管理者を中心に限られた一部の職員の参加で評価作業が行われた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 業務の合間に時間を作り、運営推進会議の趣旨や理解を得るために家族の代表、関係機関、医療機関、行政等へ足を運び、準備に時間は掛かったが近々開催される予定である。会議が地域のつながりを深めていく貴重な機会と捉えている。
②	
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情箱などの設置はないが、家族からは来訪時に要望等を聞く姿勢で対応している。また、感染症が流行した時にはホームの状況を伝えるなど家族の不安への配慮がある。これまでの評価結果は家族に配布されている。現在空き室があるが、制度上、他市町村在住の利用者は受け入れができないので、希望者があっても断るケースがある。
③	
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 短期利用生活介護と医療連携体制加算の指定を受けている。日常生活では近隣から野菜の差し入れがあったり、畑作業の手伝いや雪かきなどの協力が得られたりする関係が育っている。また、ホーム内の行事参加もある。しかし、近隣の付き合いに留まり、地域団体やボランティアまでの広がりにはやや欠ける。
④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族介護体験から夫婦でホームを立ち上げ、その思いが理念に反映され、運営の指針になっている。	○	開設してから4年半が経ち、地域との関わりや利用者の身体機能低下が現れてきている状況の中、現状にあった理念の見直しが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図る為に、定期的な職員会議で確認したり、日々の気付きを記録し、それを共有することで理念を柱にした実践に取り組んでいる。	○	会議で出された改善点に対してどう取り組み、その結果どうであったかを理念と照らし合わせ確認していく作業が望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者、運営者は土地に縁がなく地域のつながりが無いところからの開設であったがこれまでの努力で、野菜の差し入れや、雪かきの協力が得られたり、ホーム内の行事の参加もあり地域に受け入れられている。		近隣の付き合いだけに留まらず、地域団体などに働きかけ交流の場から、さらに広がりのある地域のつながりが欲しい。運営推進会議を有効活用されるとよい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を十分理解し、自己評価も真摯な姿勢の取り組みが見てとれる。職員は業務等に追われ限られた職員の参加で自己評価が作成された。	○	職員と共に評価作業をする体制に努められ、改善に向けての取り組みは全職員で行い、サービスの質の向上に活かされていく実践に期待したい

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	業務の合間に時間を作り、家族の代表、関係団体、医療機関、行政等へ足を運び、運営推進会議が近々開催される予定である。	○	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会を捉え、継続した取り組みに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上のことで、市の担当者へ積極的に出向き、事業所の実情を伝えている。		現在、空室はあっても、制度上、他市町村在住の入居者から受け入れは出来ない為問い合わせがあっても断るケースがあり、苦慮されている。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者に変化が生じたときは、速やかに家族に報告している。また、感染症が流行した時にはホームの状況を伝えるなど必要に応じて郵送や電話で情報提供している。これまでの評価結果は家族に配布されている。	○	利用者の様子が分かる写真を多く使い見やすい通信が発行されているが不定期なので是非継続されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置はないが、家族が訪問の際、要望を聞く姿勢で対応している。重要事項説明書に外部の第三者が明示され、意見が言える仕組みの説明をしているが、これまでに苦情はない。		第三者委員に変更があれば速やかに訂正されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットの単独ホームで異動ということは起こり得なく、離職者は少ない。離職者が出たときは施設長と事務長がその業務をカバーしたり、新任者が慣れるまで一緒に利用者の中に入り、不安を和らげる配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じ て育成するための計画をたて、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きなが らトレーニングしていくことを進めている	研修参加者が一部の職員に片寄らないことを 配慮し、研修中の業務はパート職員が補充要 員として確保され安心して参加できる体制に ある。	○	職員育成に沿った研修計画の取り組みが望 まれる。又、研修報告は参加報告だけに留 まらず、内部研修の機会にまでつなげられ る取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業 者と交流する機会を持ち、ネットワー クづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通 じて、サービスの質を向上させていく取 組みをしている	市内の介護事業者連絡協議会や県グルー プホーム協議会に所属し、サービスの質の向上 に努めている。また、環境の異なる市街地の グループホームと相互訪問の交流を持ち、刺 激が向上に繋がっている。		今後も情報交換や交流を継続し、日々の サービスの質の向上や職員育成に活かして いただきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している	ショートステイ利用が出来るメリットを活か し希望者にはショートステイで環境に慣れて もらうことが出来る。		利用希望者には、日中遊びに来てもらう感 覚で受け入れることも検討されているの で、実現に期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽 を共にし、本人から学んだり、支えあ う関係を築いている	20代～70代までの幅広い年齢の職員層で構成 されており、若い職員は利用者から昔の生活 文化を学び、利用者の年齢に近い職員は、野 菜作りや食後の後片付けなどの作業を通し支 えあう関係が構築されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	物にこだわりのある方には曖昧にせず丁寧な個別対応に努めている。しかし、業務に追われると職員の都合で物事が進められることがある。	○	職員全員が本人の思いや意向の把握を意識し、行動に移せるよう、十分な話し合いに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の意向、家族や主治医からの情報を反映した介護計画になっている。看護師であり、介護計画作成担当でもある管理者（施設長）は徐々に増えつつある医療行為が必要な利用者の介護には医療機関との連携に努められそれが計画に反映されている。		管理者の専門的力量で計画作成プロセスが進められていく傾向にあるので、職員の意見も十分に計画に反映させ、チームで作り上げていく取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの状態は、毎日詳細に個別記録に記され、特に管理者を含め4人の看護師の対応で医療的視点が十分満たされた計画になっている。また、見直しは、適切に行われ書類も整備されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用生活介護と医療連携体制加算の指定を受けており、特にターミナルケアまで視野に入れた対応を目指し、努力されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症に理解ある内科医による月1～2回の往診や緊急時の連携体制は出来ている。また、月1回の精神科受診や必要に応じた歯科受診の支援がある。家族の協力が得られないときは通院介助も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医と密な連携でホームが対応し得る最大のケアを家族と十分話し合い、職員全員が方針を理解し、終末ケアに取り組んだ事例を持っている。	○	重度化や終末期に伴う支援方針は、家族の意思確認書や関係者と職員の統一した対応方針が共有できる書類等の整備を図られたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の声掛けに配慮が欲しいという前回の改善点は、利用者と接する時には常に意識するようにして改善を図ってきた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢化、重度化に伴い、物事に消極的な人、車イスの必要な人、常に介護を要する人、行動的な人などとニーズが多様化し、一人ひとりの希望に合わせた支援が困難になってきている。結果、テレビ鑑賞やソファーに長時間座っている時間が多くなっている。	○	身体的機能低下や精神的変化の中からも、職員が一緒になって行動のきっかけ作りをし、持てる力を引き出すよう、常にミーティングなどを通して利用者一人ひとりの生活を大切にすることの意識づけが図られたい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム前の畑から利用者と一緒に収穫した野菜を食材に一品とし、旬の野菜が食卓に並ぶように心掛けている。また、畑の苗植えから始まって、水遣り、収穫、調理、食べるという「食」を通してコミュニケーションが生まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一般家庭風呂に一对一の対応である。全員が女性で同性介助は可能になっている。午後の時間帯で1日3～4人がゆっくり入浴を楽しむことが出来、基本的な曜日や時間帯の取り決めがあるが、希望に合わせる配慮はある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所の手伝い、手作りカレンダーの色塗り、室内の飾りつけなど、利用者同士で役割が出来ていて、本人も自分に任されているという意識が持っている。2年前には人気歌手のコンサートに数名が出掛け、楽しい時間に満足された。	○	自分の楽しみや役割の場面が徐々に作れなくなっている利用者に対して、漫然と時間が流れていくのではなく、職員間で支援を深めていただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは山と畑に囲まれ、人の往来も少ない穏やかな環境にあり、玄関先の庭にはベンチが設けられており日光浴を楽しむことが出来、外で飼われている猫が利用者の元に寄り添ってくる。近くの神社への散歩や買い物などの外出機会はある。	○	外出する利用者や行き先が固定化しつつある状況を見直し、地域ボランティアなどの協力を得ていく機会にもなり、工夫を職員間で話し合われたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一週間前に入所された方がまだ環境に馴染めず、帰宅の行動に出られるため、少しの間、施錠することもある。声かけや気分を替える対応で、鍵をしないよう努力されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○災害対策			
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害時の避難には周辺住民に協力を依頼している。緊急時の連絡先は事務所の見やすい場所に掲示されている。消火器の設置や非常口をふさぐ様な物品は置かれていない。		いざという時、迅速な避難誘導が出来る様、定期的な計画を期待したい。また訓練を通して地域との協力体制も確実なものにされたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	薬の副作用予防のためにもこまめな水分補給を促している。また常にミニペットボトルにお茶を入れ持ち歩いている利用者もいる。食欲がない方には食事を摂り置きし、後で食べることが出来る。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の空間は広く、夏はよしずで日差しを和らげ、冬は太陽のぬくもりが十分活かせる作りになっている。玄関から居間、食堂、トイレ、居室までの動線が直線にあり、身近に存在が感じられ、互いを思いやる気遣いもみられる。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベットと整理ダンスは備え付けになっており、利用者の持込物品は少ない。中には備え付け収納だけでは足りなく、衣装ケースの持ち込みがあるなど、居室にその人の個性が現れている。		

※ ☐ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	「ご利用者様とご家族様のニーズを第一に、生活 の質の向上に努めます。また、ご利用者様の個性 を大切に、自立支援に努めます。」という、理 念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	ミーティングで確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	日々の会話の中や、おたより等を利用して、ご理 解頂けるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ 合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	常に、言葉かけをし、地域の一員であるという自 覚を持てるよう努力している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として 、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム内でのイベントに参加して頂くこともある が、機会が少ない。	○ イベントの機会を多く持ち、地域の方に参加して 頂けるよう、努力したい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状 況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役 立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム内の業務等で、精一杯の状態であり、地域 貢献について検討したこともあるが、実現に至っ ていない。	○ 今後の課題としたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	身近なところから、改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者のスケジュール調整中である。	○	スケジュール調整ができしだい、実施したい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	山県市の長寿福祉課等、行き来する機会がある。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去に研修に出席したことがある。	○	今後、研修等あれば、また出席し、学習していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで取り上げる機会はあるが、学びを深めていく必要があると考える。	○	今後、研修等あれば出席し、虐待防止の意識を高めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時は、ご家族とのコミュニケーションを大切にし、説明に留意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の訴えに耳を傾け、改善の必要があれば、対処している。また、山県市より、月に1度、介護相談員の方に来所して頂き、ご利用者の相談に乗って頂いている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者に変化があった場合は、速やかにご家族へ報告している。また、ホーム内のお知らせについては、報告書を作成し、郵送することもある。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、苦情等があれば、極力改善するように努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、職員の要望を聞き、反映できるよう、努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じ、職員の確保に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者に対し、精神的な負担を軽減できるよう、留意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、まんべんなく研修に参加できるよう、配慮している。また、職種や、職員の得意分野にも配慮し、研修の参加を促している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山県市介護事業者連絡協議会や、岐阜県グループホーム協議会等に所属し、ネットワーク作りに努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々、職員の様子に変化がないか留意し、何かあれば、1対1で話し合うようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来る限り、個々の職員の状況を把握し、言葉かけできるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族より、事前の面談が許される場合、自宅訪問したり、病院へ面会に伺い、信頼関係を築くようにしている。	○	ご家族より、面会をとめられる場合もあり、その場合、どのように対処するか、再度検討する必要あり。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームの雰囲気をご覧頂いた上で、ご家族の話をよく聞き、要望に応えられるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」 まず必要としている支援を見極め、他のサー ビス利用も含めた対応に努めている	まずは、必要な医療はなにか、介護はなにかを見 極め、即対応できるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫 している	体験入所の形をとって、徐々に馴染めるよう工夫 している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者を、人生における経験者とし、教えて頂 く、助けて頂く存在として、尊敬の念を持ちなが ら接するよう、心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えてい く関係を築いている	擬似家族、もうひとつの家族であると捉えて、信 頼関係を築くよう、心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	ご本人とご家族の間に、トラブルがある場合は、 特に慎重に対応するようにし、ホーム側が橋渡し できる体勢を取っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努めて いる	電話の取次ぎや、面会等、ご家族の許可を得た上 で、出来る限りの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が関わり合いをもてるよう、普段の生活の中で、さりげなく支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりが必要なケースがあれば、その後のおつきあいも大切にしたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、要望に応えたいと考えているが、ホーム側の業務や都合に流されやすい。	○	ミーティング時、個々のケースについて、じっくり話し合う必要がある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族やご本人から、情報収集しているが、十分ではない。	○	詳細を記録に残し、職員間で共有できるよう、工夫する必要がある。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の個人記録に詳細を記入し、状態把握できるようにしている。また、特に重要なことは、職員間で申し送りをするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	それぞれの意見を取り入れるよう、心がけているが、もう少し掘り下げてケアプランを練り上げる必要があるように感じる。	○	日頃のご本人の要望、ご家族、職員の意見にもっと耳を傾け、ケアプランに反映させていく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があった場合は、ケアプランの見直しをし、現状にあったものに変更するよう、心がけている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来る限り、個別記録を詳細に記入し、情報を共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況の変化や、要望に応じて、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	演芸のボランティアを依頼したり、山県市の花咲きホールでのコンサートなどに出席したりと、地域のご協力を頂いている。	○	今後も、続けていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では、そのようなケースはないが、あれば検討したい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状では、そのようなケースはないが、あれば検討したい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるよう、細心の注意を払っている。(月1～2回の内科往診、月1回の精神科受診、歯科受診など)		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科との連携や、内科も認知症にご理解のある医師に、連携をお願いしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師1名、准看護師2名を職員配置している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院した場合は面会に伺い、病院関係者と連携をはかるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	話し合いを重ね、ホームで対応できることはなにか、要望に応えられることと、そうでないことはなにかを明らかにしつつ、方針を固めていくようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人の要望を考慮しつつ、ご家族、かかりつけ医と連携し、納得できる方法を模索している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	環境変化によるダメージが軽減されるよう、配慮 している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	特に、排泄介助時の声かけや、ケアの方法につ いて、十分な配慮がなされているのか、再度確認 する必要がある。	○	何度もミーティングで取り上げており、最近も注 意を促したところだが、再確認したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、 わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	食事やおやつの希望、レクリエーションの選択な ど、日々の中で支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	業務に流されやすく、職員の都合が優先されやす い。	○	この件に関しても、何度も話し合っているが、再 確認の必要あり。ミーティングにて。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	以前は、美容院への外出援助もしていたが、体力 的、精神的に負担が大きく、現在は、非常勤職員 (美容師)に依頼し、ホーム内で対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職員が 一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、食事介助が必要なご利用者が数名お られ、また誤嚥や窒息の可能性の高い方もお られるため、一緒に食事を摂るのは、困難。その かわり、おやつの時間を利用し、一緒におしゃ べりしながら食べる機会を作っている。	○	もっと、おやつの時間を有効に活用したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、飲酒、喫煙の希望はないが、希望があれば、検討する。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	過活動膀胱や、利尿剤の服用により、排泄パターンがつかみにくい。	○	おむつの使用は、経済的な負担にもつながるので、改善をはかりたいところである。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日であるが、その日の希望や随時対応が必要な時は、支援している。	○	以前にも、ご利用者の要望をお聞きしたが、再確認の必要あり。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息や睡眠に関して、安楽な支援を心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、日光浴、レクリエーション、体操など、おひとり、おひとりにあった気晴らしを支援している。	○	参加を拒否される方への支援をどうするか、ミーティングの必要あり。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と話し合い、ご本人にお金を持たせてもよいと判断された場合は、紛失してもよい程度のお小遣いを、自己管理して頂く。(ホーム管理のお小遣いと別)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、日光浴、ドライブ、喫茶店など、出来る限りの外出支援をしているが、もう少し機会を増やしたい。	○	ミーティング時、個々のケースについて、じっくり話し合う必要がある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族との関係を大切にしていきたいと考えており、こちらから、あえて外出をお願いする場合もある。また、レクリエーションで外出する場合、ご家族に参加を促すこともある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙の支援をする。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の意向により、面会制限のあるご利用者もあるが、それ以外は、基本的に、お知り合いの訪問は、歓迎している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	慎重に対応しており、やむを得ずの場合は、必ずご家族の了解を得て、短時間とするようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に、日中は鍵をかけない。精神状態が悪化し、興奮が強いご利用者が出た場合のみ、やむを得ず、短時間、鍵をかける場合もあるが、頻繁ではない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者の安全確保に努め、変化があれば、昼夜問わず、施設長と連絡が取れるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、はさみ等を使用される場合は、必ず見守りとしている。	○	管理が煩雑になっていないか、再確認。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用をし、事故防止に努めている。	○	ヒヤリハットのケースについて、しっかり話し合っていく必要がある。意識の統一をはかるよう、改善を。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	課題に応じて、その時々で勉強会を行っているが、定期的とは言えない。	○	定期的に勉強会を行う必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時、ご近所の協力を得られるよう依頼し、連絡先をホールに掲示している。過去に避難訓練を行ったことがあるが、定期的ではない。	○	定期的な避難訓練をする必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態変化があった場合、必ず、今後起こりうるリスクをご家族に説明している。その上で、ご意見、ご要望等を確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝10時の健康チェックのほか、常に体調の変化に留意しており、異常時は速やかに施設長へ報告、対処している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの薬の説明書をファイルし、情報を共有できるようにしている。管理は、看護師、准看護師が中心となって行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜（繊維のもの）を多く取り入れた献立や、水分摂取に留意しているが、運動量が不足しており、見直す必要がある。	○	歩行訓練や、体操の機会を多くし、便秘の改善を図る。また、おやつ工夫も必要。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを促している。（ただし、拒否の強いご利用者もおられ、全員とはいえないが）	○	拒否のあるご利用者に対するケアを検討のこと。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや、水分摂取については常に留意しているが、ご利用者によっては、拒否があるため、十分に摂取して頂けないこともある。また、状態により、誤嚥予防としてペーストやトロミの工夫もしているが、ご利用者に受け入れられない場合もある。	○	誤嚥窒息防止に工夫していることとご利用者の要望をどう調整していくか、また、献立の見直し等、ミーティングにて話し合いを。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、感染予防を実行している。また、感染症流行時はできるだけ早くミーティングを行い、意識の統一を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清潔を心がけ、食器等に関しても毎食後乾燥機にかけるなどの対処をしている。食材は、賞味期限内に使い切るなど、取り決めをし、新鮮な食材の提供を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外にベンチを置いたり、ガーデニングの工夫などで、雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は、よしずを利用し、温度調整を図っている。また、ホールに花や植物を置いて、心安らぐ工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々で、テーブル席やソファの利用を使い分けしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、使い慣れた物やなじみの物を居室に置いて頂けるよう、ご家族に協力を求めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに行っている。また、尿臭の強いご利用者の居室は、においがこもらないよう、換気のほか、布団をこまめに干したり、消毒したりと、工夫している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置等で工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る限り、自力でできることを尊重しているが、とすると職員の都合で介助する場面も見受けられる。	○	ミーティング時、個々のケースについて、じっくり話し合う必要がある。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチを置いて、休憩したり、日光浴したりできるように工夫している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

看護師1名、准看護師2名を配置し、常に健康状態に留意している。連携医療機関とも信頼関係を築き、医療、介護の両面から支援できる体制をとっている。職員は、20代から70代までと年齢層が幅広く、擬似家族を意識した配置にし、安心感を得られるように配慮した。ご利用者のご家族の要望に出来る限り添えるよう、時には、橋渡しをしながら支援にあたっている。山県市伊自良地区という、昔懐かしい雰囲気のある場所で、癒しのケアを目指している。自家製菜園で野菜を収穫し、ご近所の方と言葉を交わす、畑の整備をご近所の方が助けてくださる、散歩の時は、愛猫ミー君が寄り添う、そんなのんびりした暖かなホームである。